



西から東側には、土塁が見られます。調査によって、排水を考えて、砂利、砂、土、粘土が層状に積み重ねられていることがわかりました。また、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの皿が100枚近く発見されています。



中城からは、北側に設置された階段を下り、主郭のからめて搦手門である桜門を通ります。搦手門とは、正面に対して開かれる裏手の門のことです。有事の場合に、城主が城外に逃げられるよう、少人数で守れる小型に設計されていることが多いそうです。



烏山城のシンボリックな石垣は常盤曲輪石垣(吹貫門脇石垣)です。この石垣は、地元産の自然石をあまり加工せずに積み石として用いられており、目地の隙間も広く、小詰石も少ないですが、石が動く余地のないように組み合っています。石垣の高さは、最も状態のいい部分で3メートルあり、扇のような反った勾配はなく直線的で、常盤曲輪の大手道に面し、吹貫門跡から約30メートルにわたり現存しています。

烏山城跡を探索しよう!

烏山城について学んだら、実際に登ってみましょう。初めてでも登りやすい寿亀山神社の横から登る七曲口からのコースを紹介します。みなさんもぜひ、烏山城を攻略するつもりで進み、お楽しみください!!

七曲口からのコースは往復で1時間半から2時間ほどの所要時間となっていますのでみなさんもぜひ、チャレンジしてください!



正門から本丸内部の平坦面に至る通路は、右に2回曲がり緩やかな勾配で、調査により階段も確認されています。この空間は本丸の内枳形とも呼ばれます。絵図は、江戸時代に描かれた烏山城の正保城絵図の一部で、石垣と土堀に囲まれ、敵兵を内部にとどめる空間が描かれています。

中城

古本丸

本丸



那珂川の見える東側には、横矢という、城壁に迫った敵に対して側面から攻撃する構造が見られます。正面の防御だけでなく、敵の側面を突くことで有利に防御できる構造となっていて、「横矢を効かせる」「横矢掛け」など使われます。



本丸には、石列や礎石などがあり、敵が最短距離で移動できないように障壁を設けていたことや複数時期の建て替えが推測でき、当時の様子を思い浮かべながら見学できます。

七曲口はその名の通り、七回曲がる箇所があります。つづら折りで道幅が狭く、大軍勢で攻められても、細い隊列になり、守備側が有利になるよう道が作られています。



●寿亀山神社



途中には、矢穴跡が残る大きな石があります。矢穴とは、石を割るためにつけられた人工的な穴のことをいい、この穴にくさびを入れて石を切り出していたそうです。



●案内板

車橋跡は現在、橋はありませんが、「車橋」という呼び名から、当時、下に車輪がついた引き橋がかけられており、敵が攻めてきた場合には橋を引き外し、侵入を防いでいたと想像できます。

烏山城を見学する場合の注意点

烏山城はれっきとした山城です。見学する場合には、動きやすい服装で見学してください。また、季節や時間帯によっては一部足元の滑りやすい場所がありますので、注意してケガなどの無いよう、楽しく登ってください。

